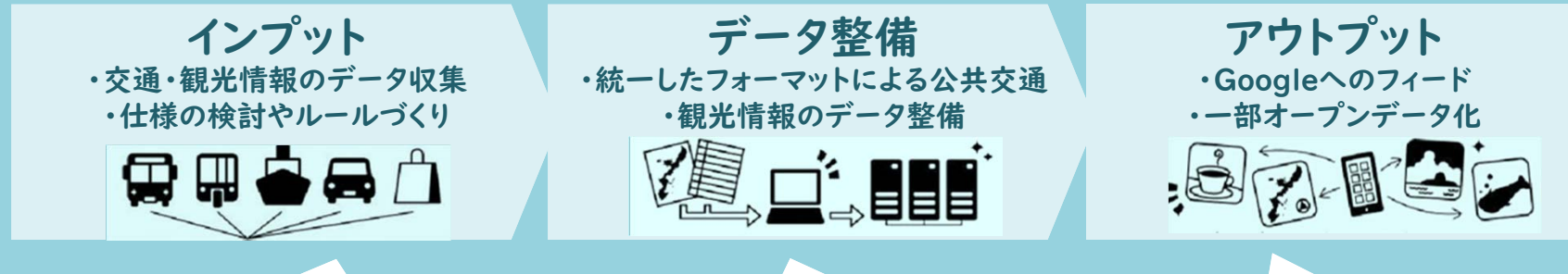


データの利活用促進等について

平成31年3月20日

(1) データの利活用促進等の考え方

現状 → 本事業で観光2次交通情報のデータ整備により、徐々にGoogleで検索可能できるように



一方で、

公共交通を利用した観光の魅力の磨き上げ・発信が必要
(観光情報、他の交通機関等との連携)

現時点では、情報の内容と情報
を得られるWEB等のサービス
が限られている。

観光客は公共交通の存在
を知らなかったり、不便さ
を感じていることも。

今後 → データの利活用促進等により、
①多くの人が簡単に情報を得られる ②充実した情報と便利なサービスを選べる
③現地でも安心して移動し、観光を楽しめることで、 2次交通の利用と観光の促進を図る

データの活用促進

本事業で整備した観光2次交通情報を多くの方がWEBサイトやアプリで利用できるように！

県内関係者との連携

各方面の事業者・関係者への周知・意識啓発により連携体制を構築し、取り組みの充実と持続を可能に！

観光客等へのPR

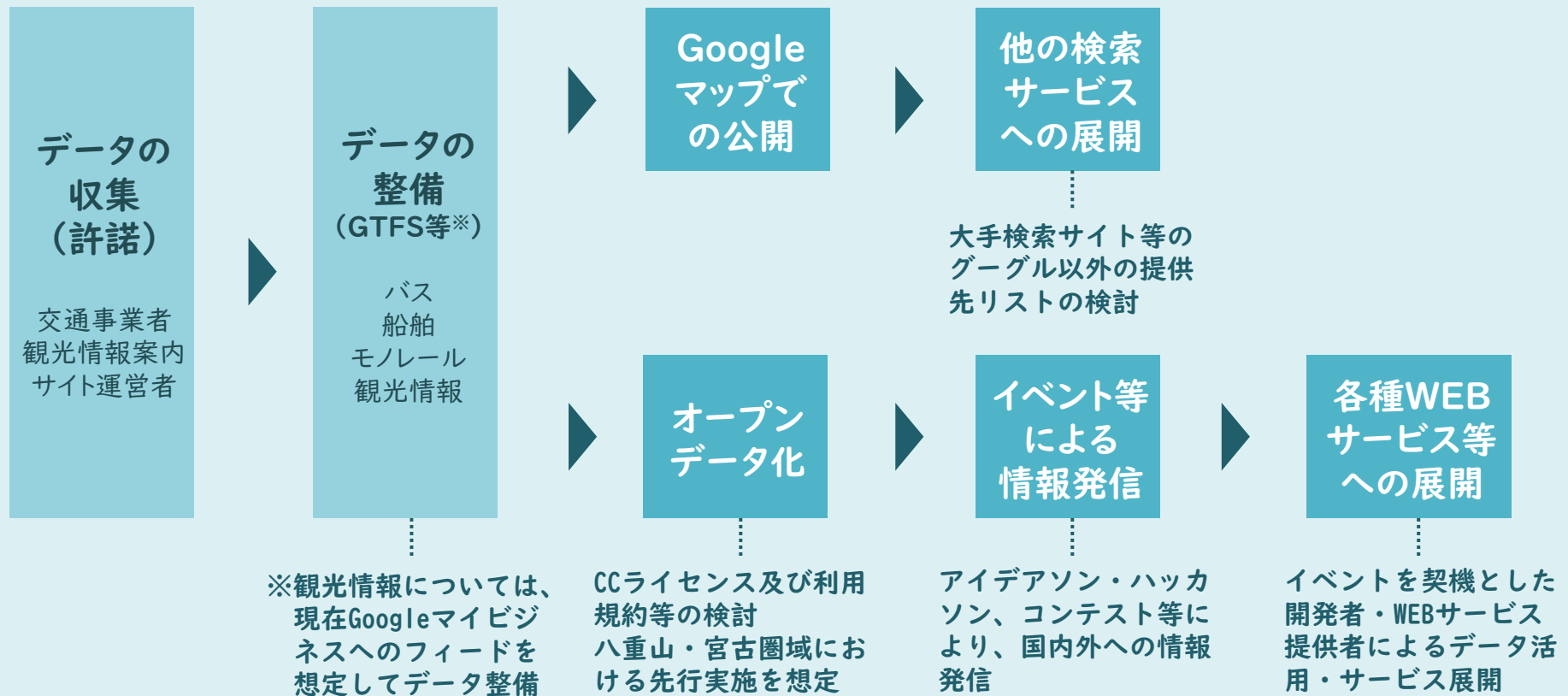
データ整備による検索利便性の向上や公共交通利用の魅力等についてアピール！

(2) データの活用促進

■検索サービスへの展開やオープンデータの活用促進により、より多くの人が情報を得ることができ、より便利なサービスが提供されることが期待される。

今年度の取組み

次年度以降の取組み



(3) 県内関係者との連携

- 県内関係者との連携（周知、勉強会等を実施）により、対象データの拡大・充実や整備データの適切な更新、観光施設・宿泊施設等でのデータの利活用などを実現することが考えられる。

公共交通情報（バス・船舶・モノレール）・観光情報のデータ整備 ※今年度実施

県内関係者（各事業者、観光関係者）への周知、勉強会等の実施

他の交通機関
への拡大
(レンタカー、タクシー、
レンタサイクル等)

リアルタイム情報
整備等への展開
(各事業者による取組み
含む)

観光情報の充実
(統一的なデータフォー
マット等の検討含む)

観光施設・宿泊施
設等での活用
(公式サイトや予約メール
等への掲載など)

データ整備の効果検証により取組みのメリットの周知・関係者のモチベーション向上
➡いずれは関係者によるデジタルマーケティングへの活用も想定

(4) 観光客等へのPR

■観光客等に対し、経路検索が可能・便利になったこと等をPRすることで、積極的な公共交通の利用や周遊観光の促進等を図ることが考えられる。

